

佐倉フィルハーモニー管弦楽団

第59回定期演奏会

2013年12月8日(日) 14:00 開演

会場：佐倉市民音楽ホール(京成臼井駅南口徒歩4分)

指揮：直井 大輔

曲目：ベートーヴェン／エグモント序曲

ヤン・ヴァン・デル・ロースト／カンタベリーコラール
アルセナール

ラフマニノフ／交響曲第2番



直井 大輔 Daisuke NAOI (指揮)

1971年東京生まれ。武蔵野音楽大学音楽学部器楽科でトロンボーンを前田保氏に、バス・トロンボーンを井上順平氏に師事。在学中から指揮者を志し、指揮法を山崎滋、エンリケ・マッツォーラ各氏に師事。1993年より巨匠ウラディーミル・フェドセーエフ氏と親交を持ち、指揮の手ほどきやアドバイスを受けている。

1997年、東京芸術大学音楽学部指揮科入学。指揮法を故佐藤功太郎、小林研一郎、ハンス・マルティン・シュナイト各氏に師事。同年、新国立劇場オープニング公演ワーグナー「ローエングリン」のアシスタントを務め、以後、二期会オペラ等の副指揮者として故佐藤功太郎、故若杉弘、故岩城宏之、他各氏の下で多くのオペラ製作に携わるとともに、ロジェストヴェンスキー氏による東京芸大『世界のマエストロを迎えて』シリーズ第1回公演にて、ハイドン「四季」の合唱指導アシスタントを務めた。全国4つの国立芸術大学が参加する合同オーケストラ等の公演に3年連続出演、台東区旧奏楽堂『木曜コンサート』にも二度にわたって出演し、指揮者を務めた。藝大フィルハーモニアによる学内演奏会では、ラヴェル「ダフニスとクロエ第二組曲」を指揮し、小林研一郎氏に「オーケストラから素晴らしい響きを見事に引き出した」と絶賛される。杉木峯夫氏(水戸室内管弦楽団首席奏者、芸大トランペット科教授)の推薦により、大学等地域開放特別事業『吹奏楽を楽しむ』演奏会の指揮者を務め、練習風景からのその模様は、NHKラジオ、新聞、CATV、雑誌などのメディアを通じて報じられている。早川和子氏の新作オペラ「師門物語」で指揮者に抜擢されデビュー。2003年、秋篠宮妃殿下、内親王殿下ご臨席のオーケストラ演奏会で指揮者を務めた。

2004年度、東京芸術大学音楽学部非常勤講師。別府アルゲリッチ音楽祭「子供のための無料コンサート」で金聖響氏と共演。藝大シンフォニカ英国公演にも同行した。岐阜県指定有形民俗文化財「かしも明治座」にて行われた公演で東京芸大の教授陣と共演し、その模様は読売新聞日曜版のトップ記事に掲載された。また附属高校オーケストラの指導でも認められ、2005年度には同大音楽学部附属音楽高校非常勤講師を務め、定期演奏会でストラヴィンスキー「火の鳥」などを指揮し、大成功をおさめた。

広島交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、東京俊成ウインドオーケストラなどをはじめ、各地の演奏団体に多数招かれており、その活動は各方面で好評を博している。千葉市音楽協会会員。



主催：佐倉市民音楽ホール・佐倉フィルハーモニー管弦楽団
http://www.geocities.jp/sakura_ph_or/

後援：佐倉フィル友の会

ベートーヴェン／「エグモント」序曲

1809年、フランス軍の攻撃を受けその占領下にあったウィーンで、ベートーヴェンは劇場支配人からゲーテの戯曲「エグモント」の付随音楽を依頼されます。既にゲーテの作品から強い影響を受け、この文豪に尊敬の念を抱いていたベートーヴェンは、1810年にかけて序曲と9曲の付随音楽を作曲しました。

悲劇「エグモント」の舞台は16世紀、スペインの圧政に苦しむネーデルランド。主人公のエグモント伯爵は、祖国の独立のために立ち上がり戦いますが、大逆の罪で捕えられ処刑されてしまいます。伯爵は、実在の人物をモデルにしています。

この序曲の演奏時間は約10分ですが、構成は緻密で重厚です。ヘ短調の力強い序奏で始まり、戯曲が凝縮されているかのように旋律が奏でられていきます。そしてコーダではヘ長調となり、輝かしく華やかに勝利を暗示して幕を閉じます。

S.M.

ヤン・ヴァン・デル・ロースト／カンタベリーコラール アルセナール

今回の演奏会では、吹奏楽の名曲をプログラムに入れて、普段と違うハーモニーをお楽しみいただきます。作曲者は、1956年ベルギー生まれのヤン・ヴァン・デル・ロースト。吹奏楽を中心に多くの作品を精力的に発表し、日本にも指揮者として度々来日して、大変人気がある作曲家です。

「カンタベリー・コラール」は、イギリスのカンタベリー大聖堂を訪れた際の感動をもとに1990年に作曲された賛美歌（コラール）風の曲で、敬虔な旋律がゆっくりと盛り上がった後、鐘の音とともに、静かに閉じられます。

「アルセナール」は、ベルギーのメヘレンで活動する鉄道工場吹奏楽団の委嘱によって1995年に作曲された、イギリス風の演奏会用マーチです。

2曲とも、美しくわかりやすい旋律の、吹奏楽曲の定番です。

T.H.

ラフマニノフ／交響曲第2番 ホ短調作品27

ラフマニノフ(1873年-1943年 ロシア)の《交響曲第2番》は1906年から1907年にかけて作曲され、翌年サンクトペテルブルクにて彼自身の指揮で行われた初演は大成功を収めた。しばしば引き合いに出される『ジャムと蜂蜜』どうのこうのといった的外れな酷評は初演から10年以上後のものである。作品中随所に聴かれる甘い旋律が、露骨で感情過多で何か妖しげであると解釈されたのであろう。

第1楽章 Largo - Allegro moderato ホ短調

異様に長い導入部を持つソナタ形式で書かれている。開始部のチェロとコントラバスが奏でる動機、次の木管とホルンによる二度下降の動機、立て続けに入るヴァイオリンのゆらめく動機、その3つが、全曲を通じて重要な役割を果たす。導入部内にも関わらず一旦頂点を形作った後、イングリッシュ・ホルンの繋ぎによってやっと主部に入る。主部では、ためらう様な第2主題がヴァイオリンによって提示され、拡大されていく。第2主題は木管と弦によって抒情的に歌われる。そもそも主要主題と導入部の動機は互いに密接に関連しているので、展開部以下ではそれらが同等に扱われ、様々に拡充されている。

第2楽章 Allegro molto イ短調

古典の交響曲でいうスケルツォに相当し、最もロシア的情緒を感じさせる楽章である。馬が疾走するようなリズムに乗って、ホルンが勇ましい主題を示す。中間部は、フォルティシモの一撃で開始される騒々しい感じのフガートで、ひとしきり展開した後、ホルンの先を急がす様なシンコペーションがあり、クレッシェンドで盛り上がりながら最初の勇壮な主題へ一気になだれ込むように戻る。ラフマニノフがその後を単純な繰り返しのみで済ませる筈がなく、金管のコラールを結尾に2度持って来て、曲は意外にも静かに終わる。

第3楽章 Adagio イ長調

この交響曲で最も有名な、美しい旋律に溢れた緩徐楽章である。開始早々、ヴィオラの揺らぎに乗って、ロマンティックな上昇形のメロディーがヴァイオリンによって歌われる。続いてクラリネットソロが、夜想曲風で息の長い、美しい旋律を奏でる。多声部に分けられた弦の織り成すハーモニーとファゴットの対旋律が表現の幅をいっそう広げる。中間部では第1楽章冒頭の動機が変形され、やがて綿々と続くような、長い長いクレッシェンドを経てオーケストラ全体によってこの楽章の頂点が形成される。全休止ののち、既出の3つの素材がさまざまに組み合わせられながらももう一度短く盛り上がるが、やがて静かに曲を閉じる。

第4楽章 Allegro vivace ホ長調

短い猛然とした序奏に続き、活発に跳ねるような第1主題が提示される。行進曲風の旋律を挟んでこの主題が繰り返される。中間部では主に木管とホルンによる3連符の刻みに乗ってヴァイオリンが大きく弧を描くような主題を奏でる。その中間部結尾で、第1楽章冒頭の動機や、第3楽章のロマンティックな旋律が回想される。それらの素材で盛り上がった後、ふたたび冒頭の第1主題が戻ってくる。コーダでは主に管楽器群が第1楽章序奏部動機の拡大形を堂々と奏したのち、3連符と付点リズムを交えて一気に突き進み、決然と曲を閉じる。

T.T.



Sakura Philharmonic Orchestra

佐倉フィルハーモニー管弦楽団メンバー

Concert Master : 青木 晶央

1st Violin

相川 みどり
 岩渕 善彦
 清水 俊子
 島津 智恵
 ♪ 庄司 睦美
 ♪ 伊藤 桜子
 ♪ 川崎 牧子
 ♪ 久間 好高
 ♪ 久間 知恵子
 ♪ 斉藤 恵美
 ♪ 高橋 雅英

2nd Violin

安部 葉子
 天本 幸江
 佐藤 邦子
 ♪ 二宮 伸雄
 畑 保子
 ♪ 亀井 玲子
 ♪ 忍田 かやの
 ♪ 早川 貴子
 ♪ 不破 悦子
 ♪ 野中 祐子

♪ : パートリーダー
 ♪ : エキストラ

Viola

♪ 安部 文人
 ♪ 上原 剛介
 ♪ 杉原 佐知子
 ♪ 高橋 奨
 ♪ 不破 眞
 ♪ 堀 那苗
 ♪ 松岡 裕樹
 ♪ 山西 佳代美

Cello

菅野 修平
 ♪ 清水 裕幸
 福島 かおる
 松浦 晴彦
 ♪ 上田 哲也
 ♪ 小井土 直樹
 ♪ 藤塚 沙也香
 ♪ 三束 武司

ContraBass

♪ 西中 久美子
 八田 英司
 ♪ 赤岡 秀紀
 ♪ 石原 勇太郎
 ♪ 木本 稔
 ♪ 宮野 良平

Flute

♪ 阿部 恵美
 土方 理絵
 三村 さゆり
 柳田 晴生
 山田 綾乃

Oboe & English Horn

古滝 百合絵
 ♪ 辻野 豊博
 出口 薫太郎
 松本 賢一郎

Clarinet

石鍋 豊和
 ♪ 梨木 美智
 原口 豊隆
 福土 未樹
 ♪ 會田 智恵子
 ♪ 金子 礼奈
 ♪ 佐藤 綾音
 ♪ 中村 和彦

Saxophone

♪ 小出 奈々
 ♪ 小出 萌香
 ♪ 金澤 芽衣
 ♪ 金澤 優子

Fagotto

♪ 大平 麻海子
 ♪ 大矢 真由美

Horn

岡 裕昭
 川田 陽子
 小林 昌樹
 ♪ 阪本 薫子
 柴田 かおる

Trumpet

石井 登雄
 ♪ 大木 基之
 安井 義人

Trombone

阿部 博
 柴田 孝一
 ♪ 村上 茂夫

Euphonium

♪ 豊山 哲史
 ♪ 半田 励子

Tuba

♪ 氏家 豊

Percussion

♪ 新井田 久美子
 横田 由起子
 ♪ 井尻 誠
 ♪ 佐藤 正也
 ♪ 杉山 敬介

第 60 回 定期演奏会

開催日 : 2014 年 6 月 29 日 (日) 14 時開演

場 所 : 佐倉市民音楽ホール

指 揮 : 直井 大輔

曲 目 : ベルディ / 「運命の力」序曲
 ベルリオーズ / 「ファウストの劫罰」より 妖精の踊り、
 鬼火のメヌエット、ハンガリー行進曲
 ベルリオーズ / 幻想交響曲

団員募集

【募集楽器】 弦楽器 : Vn. Va. Cb.
 管楽器 : Fg. (2 名)
 打楽器 : (1 名)

【練習日】 毎週日曜日 18:00~21:00

【練習会場】 佐倉市民音楽ホール練習室 他

【問い合わせ】 http://www.geocities.jp/sakura_ph_or/